

グリーンコープは前身生協の時代から、「いのち・自然・くらし」を何よりも大切に考え、子どもたちの健やかな成長を願い、自然環境を守る運動を続けてきました。

取り扱う商品についても、「プラスチック容器のカツプ麺は取り扱わない」「食品包装に塩化ビニールを使わない」「調味料などの容器はペットボトルではなく、びんを使う」などプラスチックの総量を規制するという商品政策を、設立当初から貫いています。「化学物質は安心できない」という母親の感性を大切にしてきた結果でもあります。約20年前、環境ホルモン問題が明らかになり、その影響を一番受けるのは子どもたちの未来だと知った組合員は、ただちに行動を起こし、いち早く環境ホルモンを排除していく取り組みを始めました。

「環境ホルモン」

本来ホルモンが作用する受容体に結合して、偽ホルモンとなって間違ったタイミングでDNAに指令を出します。また逆に受容体に結合するもののDNAに指令を出さず、ホルモンの働きを邪魔する物質もあります。

グリーンコープ30周年記念特別企画 30th Anniversary ありがとう これからも

企業利益と経済を優先し政策を縮小してしまった日本

ホルモン戦略計画SPEED, '98

社会的関心の高まりを受けて、当時の環境省も、1998年に「環境

シング汚染がひどく、まず最初に行つたのが、ダイオキシン類緊急対策提言でした。その成果があり、ダイオキシン類対策特別措置法という法律が議員立法できました。

1998年当時、日本はダイオキシン汚染がひどく、まず最初に行つたのが、ダイオキシン類緊急対策提言でした。その成果があり、ダイオキシン類対策特別措置法という法律が議員立法できました。

1998年当時、日本はダイオキシン汚染がひどく、まず最初に行つたのが、ダイオキシン類緊急対策提言でした。その成果があり、ダイオキシン類対策特別措置法という法律が議員立法できました。

環境ホルモン問題は、日常生活の中で様々な化学物質を浴びることによって問題が起きるですから、実際に自分の子どもや孫が影響を受けることを考えると、私たち女性が一番先に声をあげ、立ち上がるべきだと考えました。NPOとして、ダイオキシンや環境ホルモン汚染を回避するための具体的な政策を提言しています。

日本は産業界に負けてしまいました。企業の利益のために私たちの健康が犠牲になつたのです。



NPO法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議事務局長
弁護士 中下裕子さん

2015年6月、福岡市で行われたグリーンコープ環境ホルモン問題学習会での講演より抜粋

環境ホルモン問題は、私たちの生活に密着した問題です。知ること、声をあげることが大事だと、この20年間、弁護士の立場から環境ホルモン問題に取り組んできた中下裕子さんは訴えます。

環境ホルモン問題は終わってなどいない

環境ホルモン問題の解明に向け声をあげ続けよう

原因不明とされている現代病、特に子どもたちの病気の増加が、環境ホルモン問題の解明と適切な対処によって食い止められる可能性がでてきました。日本の対応の遅れを取り戻し、環境ホルモン問題への適切な対処の枠組みの確立を求め、運動を継続していきましょう。

私たちにできることを 子どもたちの未来のために

1998年、グリーンコープが10周年を迎えるにあたり、今後10年の重要なテーマとして環境問題に本格的に着手することを確認し、環境プロジェクトを設置・「グリーンコープ環境政策」の作成を始めました。組合員たちが文章の一つひとつに思いを込めて作り上げた政策は、2000年のグリーンコープ連合第八期通常総会で採択されました。

最後に、その中の一節を紹介します。

「…私たち一人ひとりが地球の一員としての自覚とともに、生活を見直し、無駄のない暮らし方をしていかなければなりません。」

一方、海外では「この問題は、未解明な点もあるが、人間や野生生物にとって極めて重大な課題である」という認識の下、着々と研究が進められたのです。2013年、WHO（世界保健機関）は、環境ホルモンのヒトへの影響に関して、生殖障がいのほかに甲状腺の機能障がい、子どもたちの未来が明るいものであつてほしいと願う母親の思いは、20年経た今も変わりません。家族の健康や自然環境を守るために私たち一人ひとりができるなどを、これからも取り組んでいきましょう。

子どもたちの未来が明るいものであつてほしいと願う母親の思いは、20年経た今も変わりません。家族の健康や自然環境を守るために私たち一人ひとりができるなどを、これからも取り組んでいきましょう。

缶詰

缶の内部のコーティング材からビスフェノールA溶出の危険性が指摘され、取り扱い缶詰類を調査。その結果、ビスフェノールA溶出の可能性のある缶詰23品目の供給を停止。その後、安全な缶や容器に切り替えました。



さらに今回、環境ホルモン対応缶を使用し、グリーンコープの調味料を使った魚類の缶詰を開発しました。缶詰を作るメーカーは、東日本大震災で被害を受け、保存食の必要性を痛感して新しく缶詰の製造を始めた水産加工会社です。組合員の思いに応えてくれました。いわし・さば・さんまの缶詰は、組合員が試食して選んだ味です。安心して食べられる魚の缶詰を利用ていきましょう。



農薬

環境ホルモンの疑いのある農薬68種の排除を進めています。産直青果物については、野菜類は不使用。無・減農薬栽培が難しい果樹類の一部に使われていますが、排除に向けての取り組みは続けられています。



洗剤・せっけん

合成界面活性剤の心配のない環境にやさしいせっけんをすすめています。



化粧品

グリーンコープの化粧品には、環境ホルモン作用の疑いのある物質は使用していません。



トレーの材質を変更

材質を環境ホルモン溶出の心配のないポリプロピレン、ポリエチレンに、添加剤をタルクに変更しています。



玩具・雑貨

玩具は塩化ビニル製のものは取り扱っていません。雑貨も塩化ビニル製のものを極力排除しています。



防虫剤

天然成分が原料のかとりせんこうや、防虫剤を取り扱っています。



グリーンコープの環境ホルモン対策

環境ホルモンをなくしていこう！

グリーンコープ流ぐらしの提案